

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2020年11月1日 206号  
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

## パクー完全養殖



親魚候補を選び出す作業 9月11日



大きく育った個体を網で追い込む。

**健康で美味しいパクーを育てる！**

パラグアイとブラジルでは、毎年11月1日から翌年1月31日まで、天然の河川や湖などに棲む淡水生の魚介類について、禁漁期と定められています。もちろん、スポーツフィッシングも禁じられます。特にブラジルでは、密漁者や密漁船を上空から武装へりで監視するなどの徹底ぶりで、水産資源を保護しています。この期間は、魚介類の繁殖期にあたるからです。

禁漁期間中にも、美味しい魚がスーパー、市場、レストランなどに、養殖魚が出まわります。従来パラグアイ国内で流通する養殖魚は、ティラピアとスルビが主なところでしたが、パラグアイ大衆の好むパクーの需要も根強くあります。ほどよく脂の乗った、クセのない味。どこまで美味しく食べられるかは、調理のしかた次第。味噌焼が最高と言うのは日系人です。

これまで何度もお伝えしたように、レダ基地では、国立アスンシオン大学の協力を得て、パクーの人工孵化の研究を進め、その完全養殖への道を拓いてきました。つまり、天然の稚魚を一切捕獲しません。しかもレダで成功した孵化方式は、大規模な水温・水質管理の設備が不要です。こうして実質的に自然環境へ影響を与えることなく、水産資源の回復を目指しています。

去る9月、親魚の候補を養殖池から選び出しました。メス114匹、オス106匹です。これらの魚を栄養状態や健康状態に特別に注意しながら育てることで、孵化の成績を高めていくわけですが、結果的に品種改良につながる可能性もあります。元々パクーは病気や環境変化に強いとされます。そのため、成長効率にも優れた個体が養殖では望まれます。

過去には親魚をあらかた盗まれるという試練もありました。様々な課題を克服し、今季も元気な仔魚がたくさん生まれるよう、現場スタッフは努力しています。

# レダ基地スナップ

撮影：伊達勝見氏



臨時の船着き場で、資材を荷揚げする。9月23日



リアチョが干上がり、岬と対岸が地続きに。9月20日撮影



子豚200頭をレティロ移動 9月21日



岩澤所長と女性従業員たちが勤務条件を話し合う。9月25日



滝川君がメンフクロウを保護。



養殖用の飼料を作る川久保君。10月7日



パクーを釣る大和田氏。10月4日



アルナルド氏の夫人と娘がレダに到着。10月3日



第一農場産サツマイモ。10月1日



道路下にサイフォン管を埋設。9月25日



研修所で講義を受ける海軍兵たち。10月13日

レダで奉仕活動をする青年が、インスタグラムに写真を掲載してくれました。今後も可能なペースで続けてくれるとのことです。楽しみですね。青年たちからの一方通行的な発信ばかりにならないよう、彼らに声援や感想を送つてあげましょ。SNS等に不案内な方は、4面に掲載の事務局あてメッセー  
ジをお送りくだされば、現地に転送いたします。

珍獣チャコペッカリ、レダに現れる!!



レダに来た。チャコペッカリ。10月14日

音耳に和ら生息していな  
イヤコペツカリ。どうやらブラジルからパラグアイ川を渡つてレダにやつて来たようです。

は減少しており、絶滅危惧種に指定されています。  
しかし、面白いのはその習性!!  
ペッカリーカリー類は、普段は群れで生活しているのですが、ジャガーなどの天敵が現れた際には、群れの1匹が自らおとりになり、天敵から追われている間に群の仲間を逃がして、集団を守るようです。  
残念なことにその1匹は逃げきれずに捕食されてしまうことが多いようですが…。  
ますますチャコペッカリーカリーのことが興味深くなり



レダに来た、チャコペッカリ。



泥浴中のイノシシ(Wikipediaより)

成し生活するが、**単独で生活**する個体もある。移動の際には、先頭になつた個体の後を追つて一列で移動する。食性は植物食で、主に多肉植物を食べるが、地下茎なども食べる。

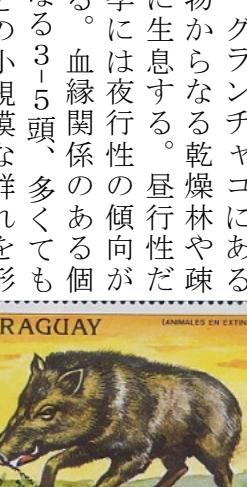
■人間との関係・生息地では食用とされることもあつた。開発や放牧による生息地の破壊、食用としての狩猟などにより生息数は激減している。(引用終り)

**似た生きものあれこれ**

地球上のかけ離れた場所に棲む、似て非なる生きものが、混同されることがしばしばあります。大抵

■ 生態.. グランチャコにある有棘植物からなる乾燥林や疎林などに生息する。昼行性だが、夏季には夜行性の傾向が強くなる。血縁関係のある個体からなる3-5頭、多くても10頭ほどの小規模な群れを形成し、主として森林で生活する。

PARAGUAY (ANIMALES EN EXTINCIÓN)



ANIMAL DE CHACO

ましたね!! (青年の記述ここまで)  
ペツカリ一について (Wikipediaより引用)

■分布 .. アルゼンチン北部、パラグアイ、ボリビア

■形態 .. 体長  $92 - 117$  cm。尾長  $2 - 10$  cm。肩高  $50 - 70$  cm。  
体重  $30 - 43$  kg。全身は灰褐色の体毛で被われる。口  
の周辺や喉、頸部は白い体毛で被われる。頭部は大  
型で、鼻面は長い。眼は頭部のやや後方にある。

■分類 .. 本種は化石種として記載されたが、197

は見かけや名前が似ていいだけで、分類上は別目あるいは別科であることが多く、種の設計の不思議に興味が尽きません。ちなみに、ヒト属は、ヒト（ホモ・サピエンス）1種しか存在しません。



レダのスクミリンゴガイ殻。

称で、正しくはスクミリンゴガイと言い、リングガイ科です。原産地はラプラタ水系。タニシではないので、「リングガイ」と呼びましよう。タニシはタニ



ダチョウ(Wikipediaより)

A woman in a striped shirt and shorts stands on a paved path, holding a small object in her hand. A large bird, possibly an ostrich or rhea, stands beside her. The background shows greenery and a body of water under a clear blue sky.

